



インドネシア

9 バリ国際空港整備事業(2)

A

B

C

D

バリ国際空港の整備を行うことにより、急増する航空交通需要に対応するとともに安全性の向上を図り、もってバリ州の経済成長に向けた基盤整備および地方開発に寄与する。

承諾額/実行額 118億1,600万円／108億4,000万円
 借款契約調印 1994年11月
 借款契約条件 金利2.6%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
 貸付完了 2001年12月



外部評価者 原口孝子(グローバル・リンク・マネージメント(株))
 現地調査 2003年7月

評価結果

本事業では、空港整備(土木工事、建築工事、航空保安施設、供給・処理施設)がほぼ計画通り実施され、期間および事業費もほぼ計画通りであった。航空交通量について、事業実施前(1993年)と事業実施後(2002年)を比較すると、旅客数は約400万人から約484万人へと21%増加し、貨物量は約4万1,000トンから約7万トンへと71%増加した。なお、97年から00年までにインドネシア全体のGDPは1.5%減少したのに対し、バリ州GRDP(域内総生産)は同期間に6.1%の伸びを示した。安全性の面では、94年以降、バリ国際空港および同航空路管制区域内での事故は発生していない。しかしながら、98年以降の経済危機や政変等により、上述の航空交通量は、当初計画の予測値(02年:旅客数約500万人、貨物取扱量約7万トン)を下回っており、ピークであった97年の水準までには回復していない。バリ州における観光産業の発展への貢献については、02年の爆弾テロ事件や03年の重症急性呼吸器症候

群(SARS)の影響から、観光客数、ホテル数、レストラン数等はいずれも減少傾向にあったが、その後、外国人入国者数(月間)[※]は、約10万人(03年5月)から約12万3,000人(04年5月)へと回復している。空港の管理運営主体である第一国有空港会社の技術、体制、財務面については問題はない。本事業の教訓として、用地取得を伴う事業の場合には、工事計画は移転スケジュールを考慮したものとすることがあげられる。

※ 同空港に直接外国から到着した旅客数。

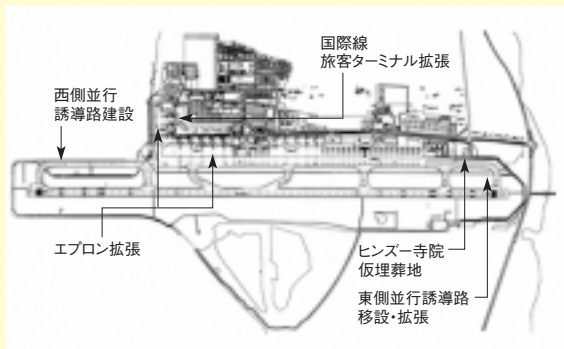
第三者意見

通貨危機やSARS、爆弾テロ等想定外の要因により旅客数などは一時伸び悩んだが、その後順調に増加しており、本事業は、増加する航空需要への対応を通じ、バリ島経済に貢献している。

有識者 Mr. Bambang Permadi Soemantri Brodjonegoro

イリノイ大学博士課程修了(都市地域計画)。現在インドネシア大学経済学部教授。専門は都市地域計画、地域経済、開発経済など。

バリ国際空港レイアウト



本事業により、エプロンや旅客ターミナルの拡張、並行誘導路の整備等が実施され、安全性の向上に加え、定時性及び快適性が向上した。

本事業により整備された国際線旅客ターミナル出発ロビー



バリ島の玄関口である旅客ターミナルは、本事業により1人あたりのスペースが広くなり快適となった。